

# 親のためのキャリア教育講演会

～人生100年時代、親のキャリア、子のキャリアを考える～

明星大学

波田野 匡章

# 本日の内容

## 注目ワード：「変化」

1. 社会（世の中）の**変化**
2. 働き方の**変化**
3. 教育の**変化**
4. 親子の関わり方について

# キャリアとは？

## 「キャリア」の語源

- 中世ラテン語『車道』= 轍？
- 『CARRIAGE（馬車）』や『CARRIER（運搬人・物）』と同語源

## 「キャリア」の定義

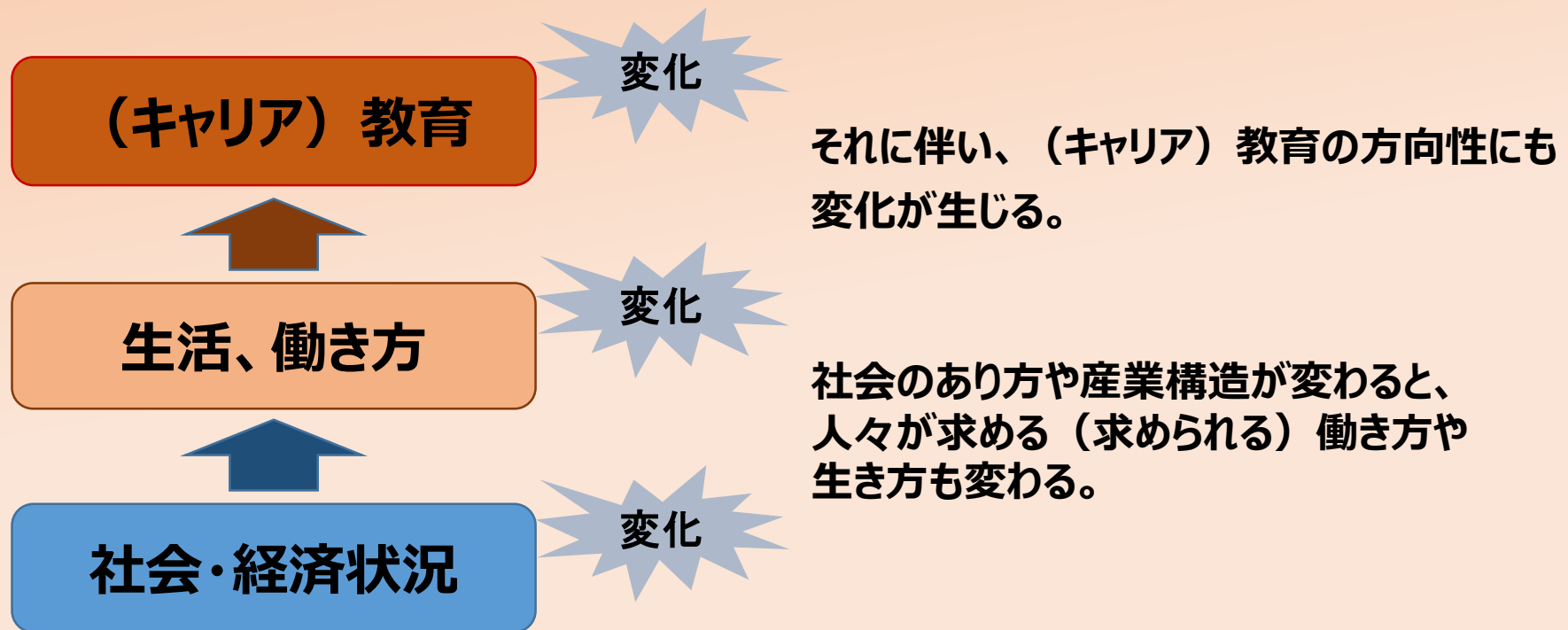
「仕事をする人としての人生そのもの（全部）」



個人的（ユニーク）、連続性、プロセス

# キャリア教育とは？

一人一人が、社会の中で、仕事を通じて、  
自らの役割を果たし、自分らしい人生を  
実現することを、支援するための教育



# 社会の変化 ～これまで～

## 第1次産業革命



18世紀

蒸気機関、水力

生産・運搬の  
**機械化**

第一次産業  
↓  
第二次産業

## 第2次産業革命



20世紀初頭

電気、エネルギー

科学的管理による  
**大量生産、効率化**

第二次産業の拡大

## 第3次産業革命



20世紀後半

コンピューター、IT

情報の一元管理  
による**自動化**

第二次産業  
↓  
第三次産業

写真出所：民進プレス

# 社会の変化 ～これから～

## 第4次産業革命

IoT、ビッグデータ、  
人工知能（AI）  
生産の自律化  
個別最適化

## Society5.0



出所：内閣府ホームページ

## 人生100年時代

「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が**107歳**より長く生きると予想されるが、この数字はその後伸び続けている。2014年に生まれた子供の場合、その年齢は**109歳**だ。」

『ライフ・シフト』  
(L・グラットン他, 2016)

変化スピードの速さ

多様性の受容

# 働き方（生き方）の変化 ～これまで～

**教育**

～22歳くらい

小学校  
中学校  
高校  
専門学校  
大学、大学院

どこの学校  
（中・高・大学）へ  
入学するか

**仕事**

22歳～60歳くらい

企業  
役所  
学校、他

どこで（どの会社で）働くか  
**「就社」型**  
終身雇用  
勤務地・職務は限定されない  
企業内研修  
ジョブ・ローテーション

**引退**

60歳くらい～

地域  
自宅、他

収入（年金）内  
での生活  
趣味、ボランティア  
（余生を送る）

# 働き方（生き方）の変化 ～これから～

**教育**

**仕事**

**引退**

～22歳くらい？

22歳～60歳くらい？

60歳くらい～？

小学校  
中学校  
高校  
専門学校  
大学、大学院  
自宅

企業  
役所  
学校  
自宅  
貸しオフィス、他

地域  
自宅  
貸しオフィス  
他

何を学ぶために  
どこの学校  
(中・高・大学・大学院)  
へ入学するか

何をして（どんな仕事をして）働くか  
「就職」型  
勤務地・勤務時間・職務は**明確化**  
自己研鑽  
副業あり

収入（年金＋報酬）  
内での生活  
(次の教育、仕事に  
備える)

GPDC（自分で**目標**を設定し、**実行計画**を立て、**行動**を起こし、**結果を検証**する）  
サイクルを速く回すことが大切になってくる



# 教育の変化 ～これまで～

いかに速く、多くの正解にたどり着くために  
社会的・職業的自立を、実現するために

社会的・職業的自立のために必要な“ジェネリックスキル”の習得

⇒ **エンプロイアビリティ（雇用可能力）** 育成

※これまで日本で提唱されてきたジェネリックスキル

人間力、就職基礎能力、社会人基礎力、学士力、基礎的・汎用的能力、など

# 社会人基礎力とは

## (3つの能力 / 12の要素)

### 前に踏み出す力(アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



#### 主体性

物事に進んで取り組む力

#### 働きかけ力

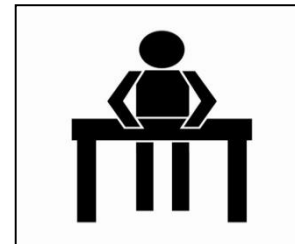
他人に働きかけ巻き込む力

#### 実行力

目的を設定し確実に行動する力

### 考え抜く力(シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



#### 課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

#### 計画力

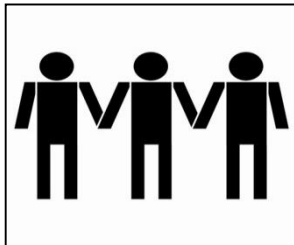
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

#### 創造力

新しい価値を生み出す力

### チームで働く力(チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



#### 発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

#### 傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

#### 柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

#### 状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

#### 規律性

社会のルールや人との約束を守る力

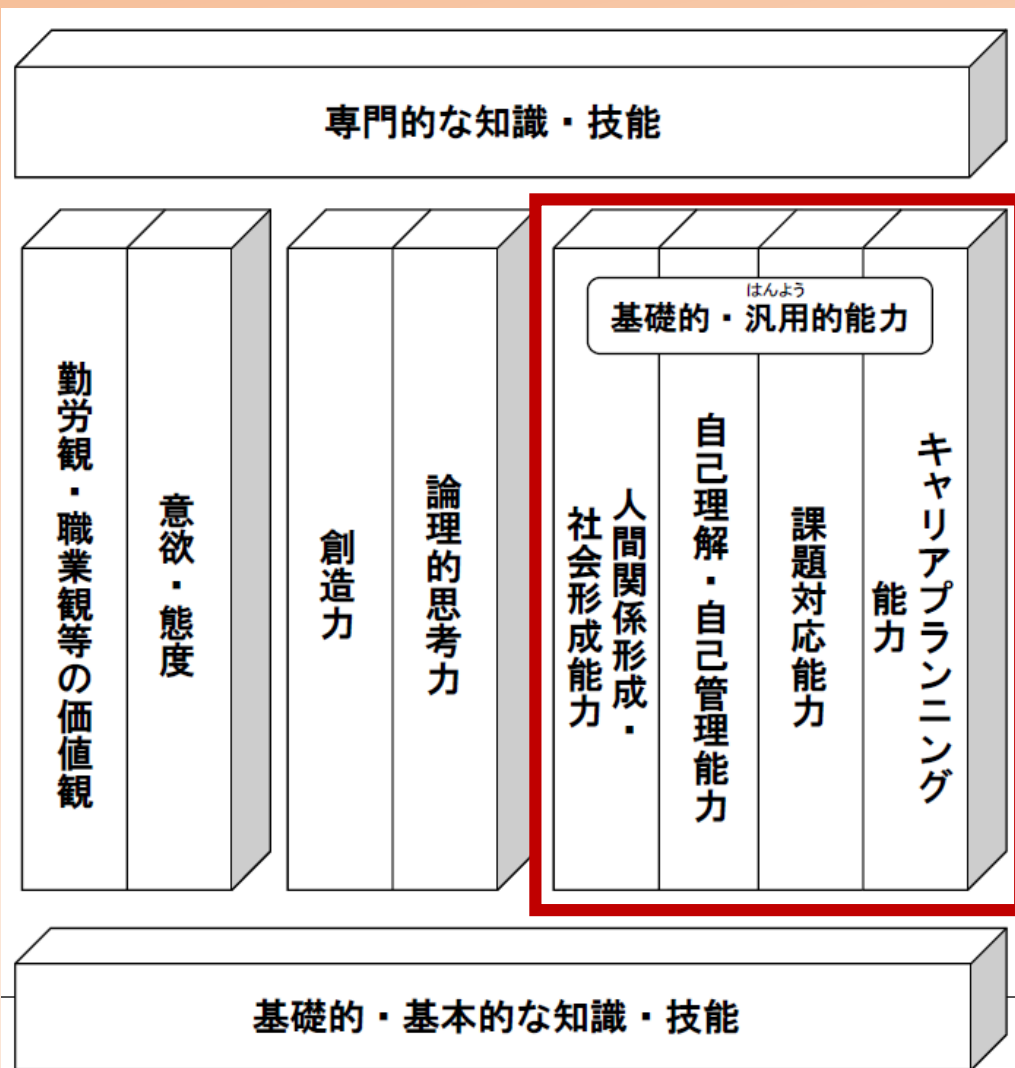
#### ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

# 小・中・高等学校

中央教育審議会（答申） 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について」  
（2011）

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



左図の要素の中でも、特に「**基礎的・汎用的能力**」は、仕事に就く上で重要かつ行動に表れるものであり、以下のような教育活動全体を通じて、育成の取り組みが行われている。

- ・各教科・科目内
- ・特別活動、学級・ホームルーム活動
- ・企業などの職場における体験活動
- ・キャリア・カウンセリング

# 教育の変化 ～これから～

自分で考えて、正解を創れるようになるために  
速い変化や多様性に適応するために

急速に変化する社会へ自ら適応して、生きていくための能力開発

⇒ **アダプタビリティ（適応力）** 育成

- ・体験的な学習活動や職業実践的な学習活動をサポート
- ・必要な時期に必要な“学び直し”ができる環境整備
- ・メタ学習（学び方の学習）の推進

これまでの教育の目的は、人々に何かを伝達することだった。それが、今日の教育では、世界がますます不確実（uncertain）、不安定（volatile）、曖昧（ambiguous）、になってきている中で、自分自身の道をうまく見つけるために、信頼できるコンパスとナビゲーションのスキルを伸ばすことが目的になってきている。

『21世紀の学習者と教育の4つの次元』（C・ファデル他, 2016）

# 小・中・高等学校

## 「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」の明確化と実践

「今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要になる」

中央教育審議会（答申）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（2016）

何が  
できるように  
なるか

### 「育成を目指す資質・能力の三つの柱」

（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「**学びに向かう力・人間性等**」）

どのように  
学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」  
（「主体的な学び」「対話的な学び」「**深い学び**」）

沖縄県  
学力向上推進  
プロジェクト  
「他者と関わり合いながら、  
課題の解決に向かい「問  
い」が生まれる授業」

こうした資質・能力と学び方を身につけることで、  
それを学んだ文脈以外の領域でも活用できるようになり、  
アダプタビリティ（適応力）の育成につながる

# 「何ができるようになるか」

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

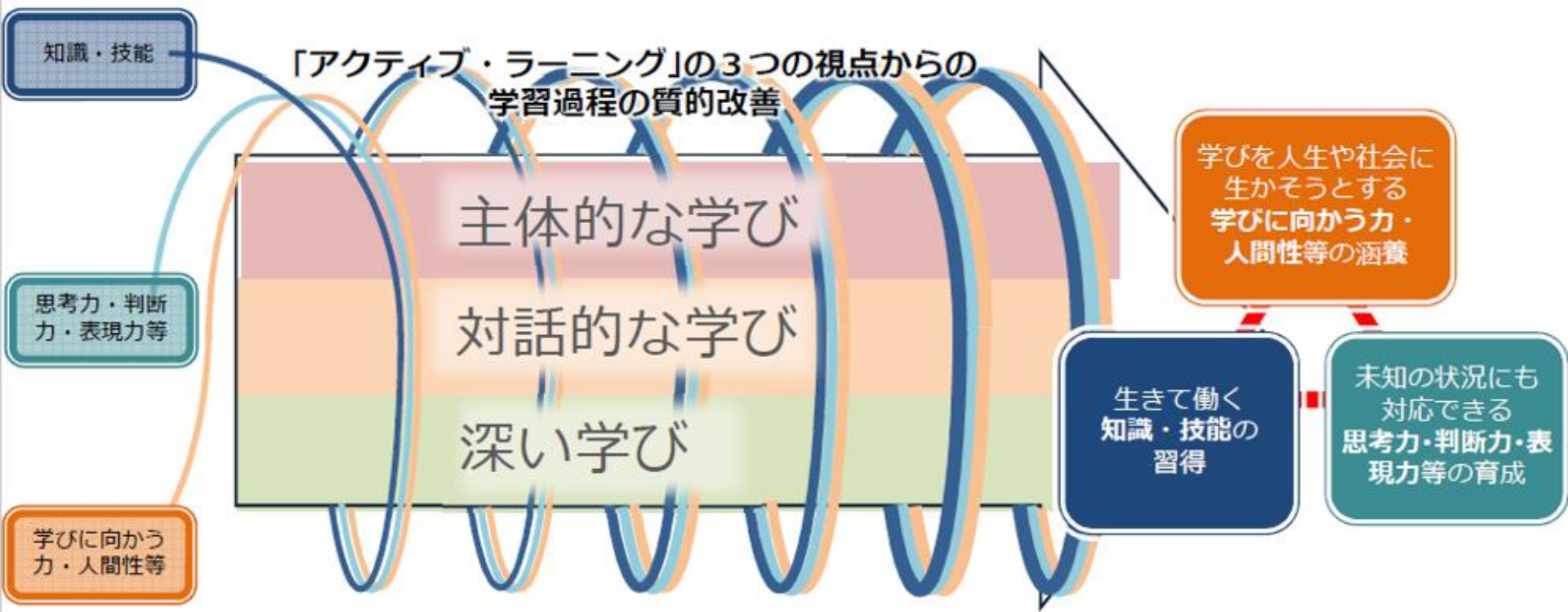
思考力・判断力・表現力等

出所：中央教育審議会（答申）

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

# 「どのように学ぶか」

資質・能力の育成と  
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）



出所：中央教育審議会（答申）  
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

# 専門学校・高等専門学校・大学・大学院

実践的な専門知識・技術やジェネリックスキル習得のためのプログラム開発・実践の強化

## ● 高大接続改革による教育改革

高大接続改革とは、資質・能力の三つの柱を身につけさせるために、

①高等学校教育 ②大学教育 ③大学入学者選抜の3つを、一貫した理念のもと  
一体的に教育改革を行うこと

## ● 専門職大学等による実践的な専門知識・技術教育の推進

専門職大学（2019年度開学）・・・実践的な専門知識・技術教育を行う（おおむね4割以上が実務家教員）  
実践的な専門知識・技術の習得のみならず、更新も可能に  
→リカレント教育推進の担い手

## リカレント教育（対象：社会人、退職者）

※リカレント教育とは：社会人になってからも、大学などの教育機関で、必要な知識や技術を学習し、それをまた社会で活かすということを、交互に実行できる教育システム

沖縄県  
アジア経済戦略構想  
「グローバル、コーディネーター人材」の育成

「リカレント教育は、人づくり革命のみならず、生産性革命を推進するうえでも、鍵となるものである。リカレント教育の受講が職業能力の向上を通じ、キャリアアップ・キャリアチェンジにつながる社会をつくっていかなければならない。」

人生100年時代構想会議「人づくり革命 基本構想」（2018）

一人一人の「知識や技術の獲得・更新」と「自分自身の再認識」の支援



# 親子の関わり方について

(環境を見ながら) 自分で考えて、自分を変えられる力 = **自変力**  
を身につけるために

## 1. 社会性

- ・論理的、具体的なコミュニケーション → 双方向の会話を心掛ける  
(オープンクエスチョンを駆使する)
- ・役割意識 → 家事分担を行う (家庭内で担当する役割を持つ)
- ・チームワーク → 人と一緒に何かをやり遂げる
- ・他者尊重 → 他人への感謝の気持ちを言葉に出して言う
- ・傾聴力 → 周りの人の話や意見を素直に聴く

Jリーグ村井チェアマンの調査によると、2005年のJリーグ新人で、その後トップレベルで活躍した選手に共通にみられた最も強い特徴は、「傾聴力」であった。  
逆境にあっても、周りの人のアドバイスを素直に聴いて、それを実行して出した成果を主張する、ということを繰り返すことによって、自分を成長させているとのこと。

# 親子の関わり方について

(環境を見ながら) 自分で考えて、自分を変えられる力 = **自変力**  
を身につけるために

## 2. 考える力

- ・身の回りの出来事を自分のこととして考える (人任せにしない)
- ・何を目指して、何をやりたいのかを考える
- ・GPDC (自分で**目標**を設定し、**実行計画**を立て、**行動**を起こし、**結果**を**検証**する) サイクルを回すクセをつける

## 3. 強靱性

- ・レジリエンス・・・回復力、強くしなやかな力、困難に負けない力  
→自己肯定感、自己効力感を育てる
- ・リバウンド・メンタリティ・・・理不尽なことにもめげない心  
→失敗体験を美化する  
本田圭佑「失敗イコール自慢できるもの」

～Jリーグ村井チェアマンが導き出した、  
トップレベルのプロ選手になるために  
必要な要素

**GPDCサイクル→自変力**

**ご清聴ありがとうございました。**